



報

お彼岸まいり

〈京都西陣のお同行からいただいたお便り〉

今日三月二十日はお彼岸の中日。そして私にとつては亡くなつた夫の祥月命日に当たっています。それでここ十数年来大谷(本廟)さんとお寺参りは欠かしたことはありません。

私は家付きの一人娘でした。主人も長男だったのですが、同じ職場で恋愛の上、弟に跡を譲つて私の家に養子として入つてくれた人です。結婚生活はわずか十二・三年であります。第一わたしの父親を本当の実の親以上に大切にしてくれて、それで家中みんなが輝いて生きてきました。その父親を送つた翌年、今度は父親と同じようなリンパ腺癌で丸一年たらずでなくなつたのでござります。

姿かたちは、確かに十数年まえにわたしの目には見えなくなりましたが、わたしは、あの人いのちはそれで消滅してしまつたとは思えません。亡くなつてからもそうでしたが、これからもいつまでもあの人のいのちはわたくしと一緒におりつづけてくれるのです。

きょうお寺にお参りして聞いたご法話の最初に、お彼岸のおはなしがありました。

こちらの岸。此岸。人間界のこちらの岸といふのは、こだわりの世界。とくに自分にこだわり執着して、人を見下げたりうらやんだり、競争に明け暮れ、差別や戦争をしてからながらくらしているわたしたちの日々のくらし。

そういう日ぐらしを越えて、彼の岸、如来様の光りにつつまれた命かがやく世界にうまれかわるうよとみんなでお勤めするのが今日のお彼岸の集いだということでした。

そんなお話を聞いて、あと、久しぶりにお会いしたお参りの皆さんと、お茶をいただきながら、一時間半ばかりなにやかやおしゃべりをしたり。

もうそろそろ帰そらんとと腰をあげたのが五時半ごろ。

本堂正面の段々を降りながらみんな一斉に声上げてびっくりしたのです。

夕日が、真っ赤な夕日が、いっぱいに世界を明々と荘厳に照らし包んでいるのです。五・六人の人が、みんなみんなこの夕日の茜色(あかねいろ)につつまれてしまつておりました。

一人のお方がおっしゃいました。

「これでっせー。さっき先生がいやはつたお彼岸ですがな。一人一人人々の依怙地で生きていようとも、如来さまのお光のなかでは夕日一色、茜一色。もつたいいことですなー。こんなきたないきたないばーでもいのち輝いて」

わたしは今でもあのひとと一緒にいるように思っています。

姿かたちは、確かに十数年まえにわたしの目には見えなくなりましたが、わたしは、あの人いのちはそれで消滅してしまつたとは思えません。亡くなつてからもそうでしたが、これからもいつまでもあの人のいのちはわたしと一緒におりつづけてくれるのです。

ああ、ほんとうにもつたいないありがたいがはじまります。

人間のほんとうのありかたを、二年間互いに聞きあい語り合い、尋ね求めて参りましたよう。

早急に申し込んでください。

連研

ぬかづさし
春
光

兵庫教区門徒推進員連絡協議会

入学

四月のこよみ

一日

湯口

裕氏宅法事

二日

光顕寺永代経

三日

あすなろ(朗読ボランティア)

総会

四日

遊友クラブ

五日

出石組組内会(本覚寺)

六日

D S

七日

出石組組合(西宗寺)

八日

湯口良明氏宅法事

九日

D S

十日

藤本勉氏宅法事

十一日

ビハーラ兵庫役員会(神戸)

一二日

D S

一三日

出石組組内会(本覺寺)

一四日

D S

一五日

御津町政源寺別永代経

一六日

D S

一七日

役員会

一八日

D S

一九日

遊友クラブ

二〇日

D S

二一

春季研修会

二二日

出石組連研運営委員会

二三日

D S

二四日

連研会場設営

二五日

D S

二六日

連研会場設営

二七日

D S

二八日

連研会場設営

二九日

D S

二〇日

連研会場設営

二一

D S

二二日

連研会場設営

二三日

D S

二四日

連研会場設営

二五日

D S

二六日

連研会場設営

二七日

D S

二八日

連研会場設営

二九日

D S

二〇日

連研会場設営

二一

D S

二二日

連研会場設営

二三日

D S

二四日

連研会場設営

二五日

D S

二六日

連研会場設営

二七日

D S

二八日

連研会場設営

二九日

D S

二〇日

連研会場設営

二一

D S

二二日

連研会場設営

二三日

D S

二四日

連研会場設営

二五日

D S

二六日

連研会場設営

二七日

D S

二八日

連研会場設営

二九日

D S

二〇日

連研会場設営

二一

D S

二二日

連研会場設営

二三日

D S

二四日

連研会場設営

二五日

D S

二六日

連研会場設営

二七日

D S

二八日

連研会場設営

二九日

D S

二〇日

連研会場設営

二一

D S

二二日

連研会場設営

二三日

D S

二四日

連研会場設営

二五日

D S

二六日

連研会場設営

二七日

D S

二八日

連研会場設営

二九日

D S

二〇日

連研会場設営

二一

D S

二二日

連研会場設営

二三日

D S

二四日

連研会場設営

二五日

D S

二六日

連研会場設営

二七日

D S

二八日

連研会場設営

二九日

D S

二〇日

連研会場設営

心を聞く

若いあいだは、ことに親の言うことは、なかなか素直には聞けないもののようにあります。

かく言う私が第一そうでした。親のことばが終わらぬ前に、「そんなこと、わかつてゐる」とか、「いわれんでも、そんなこととつくり知つてゐるがな」とか、てんで親の言うこと撥ね付けて聞こうともしなかったものです。

しかし、親に別れて、自分が親と同じ年齢になつたとき初めて、どうしてあのときしっかりと聞いておかなかつたのだろうと、後悔したり、申し訳なかつたなあとおもつてみたりのことが、このごろしばしばあるのです。

このようなありかたが、いま現在のわたしにもあるような感じがいたします。

淨土真宗のお聖教のなかに『安心決定抄』という本があって、そのなかに非常に感激的な文体でこのような質問が書いてあります。

「阿弥陀如来さまの、せつないおこころを長い間聞かせていただいていながら、ほんにあさはかな自分へのこだわりからぬけ出せず、結局、おんなんじところを行つたり来りのわたしであります。これは一体どうしたことでございましょうか」

古い諺に「よしの體から天のぞく」というのがあります。まさしくわたしのとおりであります。

どんなに偉い先生のお話聞かせていただきても、お念佛のお呼び声長い間お聞かせいただいていても、自分の立場、自分の知識自分の経験などにこだわりづけ、「そうはいわれても」「そうはいわれても」というように親の声をはねつけ、親の言葉にたてついているのはこのわたしであります。

蓮如上人が、先の『安心決定抄』の質問を尋ねた人にたいしてお答えになつた言葉

「聞き分けて、え信ぜぬものに」はなるな

如来さまのお呼び声も、「ウンウンなるほどそういう意味合いで」というふうに、自分の判断、自分の耳で聞いて、あの表現はどうの、このことばはどうのと、とかく自分中心に得手勝手に聞きかじつたのでは、「どんなことがあってもあなたを捨てることはできなさいよ」と、案じてくださる深いおこころは受け取ることはできないのです。

蓮如さまは、わたしにいま、このように教えてくださるのであります。



二二つのことば

老僧

お釈迦様をブツダ・仏陀と呼びます。また略して「仏」と言い、その教えを「仏教」と言います。ブツダとは「めざめた人」という意味の尊称です。「ものの眞実のありよう」にめざめた人お釈迦様」が「眞実のいのちにめざめて生きましょう」と示された教えが仏教です。

ものの眞実のありよう、眞実ないのちのありようとは。

「縁起」というありかたを申します。

すべてのものは、あまた無量の原因や条件に縁(よつて)起こり存在しているもの。決して単独で自分一人で生きているものはない。

そうであるにもかかわらず、じぶん一人のかいだいていても、自分の立場、自分の知識自分の経験などにこだわりづけ、「そうはいわれても」、「そうはいわれても」というように親の声をはねつけ、親の言葉にたてついているのはこのわたしであります。

そこでは「無我」を目指しましょ。

これはわたしのいのち、これはわたしの財産、わたしの考え方、わたしの判断と、自己中心の見方考え方から越えて、眞実な命のありよう、眞実な命が見えないところから、いろいろな苦悩がうまれてくるのだよと教えているのです。

蓮如上人が、先の『安心決定抄』の質問を尋ねた人にたいしてお答えになつた言葉

「聞き分けて、え信ぜぬもののことなり」

春季研修会(観桜会)

二案内

実施日：平成13年4月22日(日曜日)

第一部 ボーリング大会

- 1:00 勝林寺集合・出発
2:00 ゲーム開始
2ゲームします
終了

※直接会場に行かれる方は、2時開始、
時間厳守でお願いします。

会費：
2ゲーム、靴代とも
¥1,000円

場所：コープデイズ 2F
アーバンポール

第二部 研修会・観桜会

- 5:00 受け付け
5:30 おつとめ・法話
7:00 観桜懇親会
9:00 終了

会費：
男・1500円
女・1300円

納骨参拝研修旅行

昨年春以降逝去された方々の(大谷本廟納骨式)を仏事仏婦会員が遺族と共に毎年行つてまいりました。今年は京都本願寺と高野山金剛峰寺の参拝を組み合わせた(和歌山市宿泊)研修旅行として計画しました。

八月一十一二日(土)
一十四日(日)

詳しいこと(経費・日程)は後日お知らせします。誘い合ってご参加ください。
(仏事仏婦会長)

<<参加申込先：仏事理事・仏婦評議委員>>

申込締切：4月16日(月曜日)